



けやき

西東京市立栄小学校

令和7年10月31日(金)
西東京市栄町2-10-9
TEL 042(423)0276
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-sakae/index.htm>

ちがいをこえて 分かり合う心～「あらしのよるに」から学ぶこと～

生活指導主幹 下川 隆太

ある嵐の夜、見た目も立場もわからないまま、小屋の中で出会ったヤギのメイとオオカミのガブ。光のない真っ暗な空間で、二人は相手の姿に先入観を持たず、ただ「声」と「言葉」だけで心を通わせていきます。そして翌日「嵐の夜に会ったあの人」と再会した時、そこにいたのは天敵同士のヤギとオオカミ。しかし、互いに驚きながらもメイとガブはその出会いを大切にし、「友達」でいることを選びます。

読書の秋。栄小では11月に「もみじ読書旬間」設定しています。本はたくさんのこと教えてくれます。

この物語「あらしのよるに」(きむらゆういち作)は、友情・信頼、そして「違いをこえて分かり合うこと」の大切さをやさしく、けれども深く教えてくれます。

私たちの学校にもメイやガブのように、性格も得意なことも、みんなちがう子ども達が集まっています。だからこそ、時には分かり合えなかつたり、思いがすれ違つたりすることもあります。でも、もし相手を見た目や立場だけで判断せず、「まずは話してみよう」「聞いてみよう」という気持ちがあれば、そこから少しづつ信頼や友情が生まれてくるのではないかでしょうか。

ガブはオオカミとしての本能に迷いながらも、メイを信じ「友達」として向き合います。またメイもガブがオオカミだからといって避けるのではなく、心の声に耳を澄ませ、「自分が信じたい相手」を信じます。その姿から本当の信頼とは「相手の立場や条件ではなく、その人の本質を見ようとする気持ち」から始まるのだと気づかされます。

今、子供たちが学校生活の中で育んでいる「友達とのつながり」は、一人一人の成長に欠かせない大切な学びです。うまくいかないときもあるでしょう。喧嘩をしてしまうこともあります。でも、そんな時こそ、自分の思いだけでなく、相手の思いにも耳を傾け、「ちがい」を乗り越える力をつけてほしいと願っています。

メイとガブのように、「ちがいをこえて、信じあえる友達」を子供たちが一人でも多く持てるよう、子供たちの気持ちに寄り添いながら見守っていきたいと思います。

生活指導より

生活目標 11月の生活目標:「外に出て元気よく遊ぼう」

外に出て遊ぶ時は、走る しゃがむ ジャンプするなど体を動かすので骨や筋肉に良い刺激になります。授業の時よりも遠くを見るので目を休めることができます。太陽の光を浴びると体内時計の調整をします。他にも体に良いことがいろいろありますので、休み時間に外で遊べる時には、外で遊ぶように指導していきます。ご家庭でもお話しいただければ幸いです。

※持ち物について

- ・キーホルダーなど学習に必要なものは持ってこないようになっています。ご家庭でも再度確認していただけたらと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。